

ティセラ「日本図」

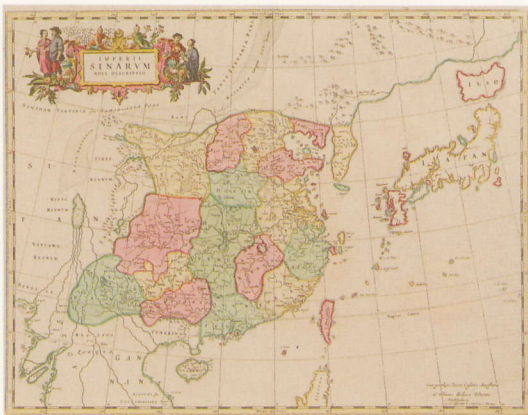
1595年 アントワープ刊
愛知学院大学図書館情報センター所蔵



ヨーロッパで刊行された最初の独立した日本図である。ティセラ (1564-1604) はポルトガル人でスペイン王室の地図製作者であった。本図において初めて本州の全体が描かれ、肥大した能登半島をはじめとする本州の形状は同時代の唐招提寺の行基図を思い起こさせる。朝鮮半島が島として描かれているのも本図の特色であり、この後多くの地図に影響を与えた。当時、普及していたオルテリウスの地図帳にて紹介されたものである。モノクロの図は表紙の図と同様のものだが、一枚ものの地図としては、彩色がほどこされておらず白黒のままである。ティセラの「日本図」は手彩色のものが多く見られ、むしろ彩色をしていないものの方が珍しい。(足立祐輔)



図書館情報センター所蔵 貴重資料の紹介 (2)



マルティニーニ「中国図」1655年 アムステルダム刊
マルティノ・マルティニーニ (1614-1661) はイエズス会のイタリア人牧師であり、中国の浙江・杭州などで布教し、情報を取り入れた。本図は朝鮮半島が南北の半島になっており、蝦夷は描かれてあり、極東の情報はかなり正確である。日本については、奈良時代の「行基図」を基にしたモレイラ型 (16世紀末にモレイラが実測調査) であり、能登半島が小さいのが特徴である。この時代の中国地図としては方角が正確であり、中国旧来の地図にも大きな影響を与えた。(足立祐輔)